

令和3年2月22日 第2回徳島県新型コロナウイルスワクチン 接種調整会議」の概要

2月22日に「第2回徳島県新型コロナウイルスワクチン接種調整会議」が開催されましたので、概要を報告いたします。内容については、公表前のものなので取扱注意とのことです。先ほど報告した「第2回徳島県新型コロナウイルスワクチン接種実務者会議」は主に市町村がメンバー、この調整会議は、県医師会、歯科医師会、看護協会、薬剤師会、市町村代表、医療機関代表、保健所、卸売業者等がメンバーで、斎藤会長が会長として、田山常任理事と石本が出席いたしました。

斎藤会長、田山先生

内容について、修正、追記がありましたら、よろしくお願いいたします。

石本寛子

医療従事者等の優先接種について

- ・医療従事者等の優先接種については当初3月中旬からの予定であったが2月19日に国から通知があり、3月第1週に4箱、第2週に4箱の第1弾の1回目のワクチンが、3週間後の第3週、第4週にも同じだけ第1弾の2回目接種分として本県に配送されることになり、前倒しの計画が必要になった。
 - ・国に報告している37,578人以降、医学部学生、看護学生で実習しているもの、助産所の助産師も追加となり増加する可能性がある。
 - ・現在連携型接種施設として400施設以上の施設に手を挙げていただいている。
 - ・医療従事者用のワクチン希釈用シリンジ・針は県が調達（接種用は国が調達）、梱包作業員を各基本型施設へ2名程度派遣（委託業者）、梱包資材（保冷バッグ等）は県が調達、配送は、委託業者が実施（一部は自治体職員が配送）としている。
- 基本型接種施設での梱包作業は薬剤師会等に依頼、県職員または市町村職員が立ち会い、基本型施設の職員には確認をお願いするとのことです。
- ・ワクチン接種後の副反応等に対応する医療・相談体制について説明がありました。（概要は実務者会議と同じです）

優先接種の実施方法について

- ・今回出荷される8箱（全国で1,000箱）について、24日までに配送先・箱数を国に報告する必要がある。
- ・国からは、第1弾・1回目接種分と第1弾・2回目接種分の配送先を変更することは認めないとされている。また、基本型接種施設から基本型接種施設への移送が認められないこと、連携型接種施設が連携する基本型接種施設は1か所とされていることなどから、ワクチンの配分にかかる制約が大きい。
- ・県からは、今回の配分が限られていることから、まず基本型接種施設で新型コロナ患者と接する頻度の高い者又はその可能性のある者、基本型接種施設以外で入院患者受入機関に所属し新型コロナ患者と接する頻度の高い又は

その可能性のある者、自治体職員などで新型コロナ患者と接する頻度の高い者又はその可能性のある者を優先したいとの提案があった。

・今回は6回用のシリンジも配布されるとされており、第1弾第1回目前半4,680回分、後半4,680回分となっている。案としては、第1回目前半を徳島大学病院、徳島県立中央病院、徳島赤十字病院、徳島県立三好病院、後半を徳島市民病院、徳島県鳴門病院、阿南医療センター又は海部病院、吉野川医療センターとし、東徳島医療センター、半田病院等については、余剰分の利用について検討する、その他の余剰分は近隣連携が他施設等に配分又は基本型接種施設において接種という方向性が示され、概ね了承された。県は国に対し柔軟な接種ができるよう緊急要望をする予定で、認められれば対応予定。

質疑

- ・余剰分については誰が調整するのか → 今回については県が調整する。
- ・海部病院から阿南医療センターに接種に行くのは難しい。基本型から基本型へのワクチンの移送が認められるようにしてほしい。
- ・6の倍数あるいは5の倍数で余るものはどうするのか → 各病院や自治体職員で調整したい。
- ・第1回の会議では2回分を確保してから接種することだったが。 → 国は2回目を配布すると言っているので、1回目として接種する。
- ・3月1日の週とされているので、そこで出発早くても翌日の到着になる。
- ・一時的に基本型から連携型に変更できないか。 → 基本型から基本型に移送できるよう強く国に要望したい。
- ・ワクチンが日本に入っていない恐れがあり、高齢者のスケジュールも遅れるのか。
→ 国も高齢者については少しずつ慎重に進めると言っている。
- ・基本型施設の事務的なことについても委託業者にやってもらえるのか。 → 確認のための立ち会いはお願いしたい。
- ・ディープフリーザーから冷凍で移送しディープフリーザーに再度保存が可能か。
→ ファイザーから配送されたボックスをそのまま活用すると可能と通知がでている。